

熊本県官民協働海外留学支援事業（担当課：企画課）

海外でのインターンシップやフィールドワーク等の実践活動を焦点にした留学を支援するとともに、熊本県内においてインターンシップの機会を提供することで、国際的な視野を持って世界を相手に自らの力を発揮することができる、熊本県と世界との架け橋となる人材を育成することを目的としています。

実践的な海外留学のための奨学金、授業料、往復渡航費等を助成しました。

助成対象者の声

熊本大学 文学部 コミュニケーション情報学科3年
岩下 唯愛

- ・留学先国名：アメリカ
- ・受入機関：ハワイ大学ヒロ
- ・県内インターンシップ先：株式会社イズミ車体制作所
- ・留学テーマ：真のソーシャル・インクルージョンを目指して
- ・留学を終えて：留学先ではハワイ語、演劇など一人の障害学生としてアメリカの障害学生支援を学び、ソーシャル・インクルージョンの鍵となる要因を学びました。「障害」を先に考える日本とは違い、その学生が「困っているニーズ」を解決しようという姿勢が随所に感じられ、「障害があるから」という理由ではなく、「困っているから」という理由で支援を求められるので、頼りやすい雰囲気アメリカの大学にはあると感じました。

また、県内インターンシップを通して、これまでは私は教育を変えることに価値を置いており、それ以外の業種にはあまり関心を持てていなかったが、ソーシャル・インクルージョンを目指す私自身が、異なる分野の方々と対話し、協働していくことが鍵であると気づくことができました。

今後、それを学んだ私自身が4月に企画している留学報告会を皮切りに、主催者として様々な価値観を本当の意味で受け入れ、そこから新しい価値を創造する場所を形づくりたいと考えています。



熊本大学 自然科学教育部 情報電気工学専攻1年
波多野 遊然

- ・留学先国名：ブラジル
- ・受入機関：Federal university of espirito santo (Institute santos dumont)
- ・県内インターンシップ先：医療法人悠紀会病院
- ・留学テーマ：夢は「BCIを利用した、世界の子もたちがワクワクする製品開発！」
- ・留学を終えて：留学先ではBrain Computer Interfaceについて学び、それを利用した自閉症の子供達のための注意カトレーニングを行うゲームの開発から、オンラインBCIを行うためのシステムの構築、Brain to Brain Collaborationの研究を行いました。

今回の留学でBrain-Computer Interfaceの最先端の技術を身につけることができ、日本と全く違う文化の素晴らしさ楽しさを体験し学ぶことができました。そして何より、熊本の治安、モラル、水、自然、食など熊本の素晴らしさを大いに感じました。

この経験を通して、熊本でグローバルに活躍する人間になると決めました。

そのためのビジョンとしては、修士課程修了後自分のスキルを活かし脳波を扱うアメリカの企業に就職し、その製品化技術を身につけ、熊本県に帰ってきて熊本県の脳卒中後リハビリ患者のための会社を設立したいと考えています。そして、熊本県の子供達が私が体験したような海外での経験を積めるような奨学金を作りたいと考えています。

